

れきしみち

2021.7
No.121

美への探求心
あくなき
変わらない
今も昔も

歌川国貞(三代豊国)
「湯帰りの美人」(部分)

鈴木春信
「笠森お仙」(部分)

特集

特別展 **美vid Ukiyo-e!** — 美人画浮世絵展 —

P4 松平シンポジウム報告 [2]

P6 連載「安城歴史散策
風を感じて歴史を歩く8」

P7… 特別展関連イベント、トピックス

P8… ナイトミュージアムの案内
市民ギャラリーよりお知らせ



初代喜多川歌麿
「婦人相学拾録 かねつけ」(部分)

安城市
歴史博物館

Anjo city Museum of History

れきしみち No.121 令和3年7月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL 0566-77-6655

夜の博物館に行こう！ 「ナイトミュージアム」

8月27日(金)～8月29日(日)

8月27日(金)～8月29日(日)の3日間は安城市歴史博物館、安城市民ギャラリー、安城市埋蔵文化財センターを夜8時30分(入館は夜8時)まで開館します！(※通常は夕方5時まで) 期間中は様々なイベントをおこないます。ぜひ夜の博物館にお越しください！

さとのマルシェ
 飲食のキッチンカーから
 雑貨やクラフトの店舗が出店。
 [開催日] 8月28日(土)、29日(日)
 16:00～20:30
 [会場] 安祥城址公園
 協力:FEEL FREE

毎年人気の
ドキドキ・わくわく **博物館ナイトツアー**

夜の常設展示をめぐる。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみください。
 [開催日] 8月28日(土)、29日(日)
 ①18:00～②18:30～
 ③19:00～④19:30～
 [会場] 歴史博物館2F 常設展示室
 [定員] 各10名(先着順)
 [参加費] 100円(ミニ灯笼のお土産付き)
 [対象] 3才以上
申込み 8月12日(木)朝9時～電話受付開始



歴博宵語り「美人画浮世絵展 作品説明」

特別展「美vid Ukiyo-e!美人画浮世絵展」の見どころを解説します。参加者には美人画浮世絵展オリジナルうちわをプレゼント！
 [開催日] 8月27日(金)
 ①17:30～②19:00～(※40分程度)
 [会場] 歴史博物館 講座室
 [定員] 各20名(先着順)
申込み 8月5日(木)朝9時～電話受付開始



初代喜多川歌麿「婦人相学拾録 かねつけ」

和紙で風船アート

膨らませた風船に和紙を貼り、和紙の丸いランプシェードを作ります。
 [開催日] 8月27日(金)
 ①17:30～②18:15～③19:00～④19:45～
 [会場] 市民ギャラリー創作実習室
 [定員] 各10名(先着順)
 [参加費] 1個200円
申込み 8月6日(金)朝9時～電話受付開始



土器ドキ晩ゴハン

火きり杵と臼で火をおこし、復元弥生土器でご飯を炊きあげます。豚汁も配布します。
 [開催日] 8月28日(土)17:30～19:30
 [会場] 歴史博物館前ピロティ
 [定員] 家族かグループ5組(1組5名まで/先着順)
 [参加費] 1人100円
申込み 8月8日(日)朝9時～電話受付開始



山口晃司 三味線コンサート

超絶技巧の演奏で注目を集める三味線奏者・山口晃司のステージです。
 [開催日]8月29日(日)
 17:30～18:30
 [会場] 安祥城址公園
 [出演] 山口晃司
 (世界最速の三味線奏者)
 [いす席定員] 25名(先着順)
申込み 8月11日(水)朝9時～電話受付開始



向井健人 和のマジックショー

イタリア国際大会優勝など、世界で数々の実績を誇る向井健人のマジックを披露。
 [開催日]8月28日(土)
 16:30～17:15
 [会場] 安祥城址公園
 [出演] 向井健人
 (マジシャン)
 [いす席定員] 25名(先着順)
申込み 8月10日(火)朝9時～電話受付開始



オリジナル風鈴づくり 50個限定(先着順)

陶製の風鈴に自由に絵を描いて、オリジナルの風鈴を作ります。
 [開催日] 8月27日(金)
 ①13:00～②13:45～③14:30～
 ④15:15～⑤16:00～
 [会場] 歴史博物館 体験学習室
 [定員] 各10名(先着順)
 [参加費] 1個400円
申込み 8月9日(月・振休)朝9時～電話受付開始



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPにてご確認ください。 **お問合せ/お申込み 安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655**

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展
「江村和彦造形展 ロボと恐竜・そうぞうの森」

観覧には事前予約が必要となります。詳細はHPにてご確認ください。



ROBOSAURUS (tyrannosaurus) [開催期間] 令和3年8月14日(土)～8月29日(日)
 [時間] ◎8月14日(土)～26日(木) 9:00～17:00(入館は16:30まで)
 ◎8月27日(金)～29日(日) 9:00～20:30(※開館延長/入館は20:00まで)
 [場所] 市民ギャラリー展示室 全室
 [観覧料] 500円(※中学生以下無料)

ロボットと恐竜を組み合わせた「ROBO-SAURUS」の展示を中心に、様々な素材の造形作品をお楽しみいただけます。8月27日(金)～8月29日(日)のナイトミュージアム開催時には特別仕様の展示も登場します!!

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください
安城市歴史博物館 URL / <https://ansyobunka.jp/>

今も昔も変わらないあくなき美への探求心

特別展 美vid Ukiyo-e!

— 美人画浮世絵展 —



鈴木春信「笠森お仙」

水茶屋の看板娘

お仙は谷中笠森稻荷境内の水茶屋鍵屋の給仕女。美人の評判高く、明和(1764~72)の頃、鈴木春信らの浮世絵に多く描かれて一躍有名人になりました。水茶屋とは名所や社寺の門前で茶などを供して休憩させる店ですが、お仙のような看板娘をおいて客を集めようとした。

Idol of Edo 03

お江戸のアイドル
— 人気の美人たち・遊女の暮らし —

浮世絵の美人画に登場するのは、市井の名もない女性だけではありません。実在の評判美人や高名な花魁(上級遊女の呼称)も多く描かれました。浮世絵は現代でいうアイドルのプロマイドやポスターの役割も果たしていたのです。水茶屋の看板娘は庶民代表の身近なアイドルです。吉原の花魁は、美貌だけでなく高い教養と多種多様な遊芸を兼ね備え、限られた者しかかなれない最上位の遊女です。大名や豪商などの上客を相手にする花魁は、庶民の男性にとっては高嶺の花。女性にとっても、最新モードに身を包んだ花魁は今でいうスーパーモデルで、あこがれながらも容易に真似できるものではないカリスマ的存在でした。本章では遊女たちの公私の生活も紹介します。

令和3年 7月17日(土)~9月12日(日)

観覧料:500円※中学生以下無料 団体・20名様以上/400円

きもの・ゆかた 割引

会期中、和装でご来館のお客様

特別展観覧料 100円割引

※他の割引券との併用はできません。

浮世絵は江戸の市民に親しまれた大衆的な美術であり、なかでも当時の女性を描いた「美人画」は、時代や国を越えて今でも愛され続けています。今日とは異なり社会的な制約が多かった江戸時代。女性は、身分や階級、未婚か既婚、そして年齢によって身だしなみにも様々なルールがありました。そのような中で女性たちは化粧や着物の着こなし、ヘアスタイルなどに工夫をこらし、楽しみながら美を追求していました。町人や働く女性たちの日常風景、理想的な美しさをもつ遊女や茶屋の娘など、様々に描かれた「美人画浮世絵」は当世の女性たちにも影響を与え、今でいうファッション誌をみるようにあこがれをもって親しまれました。

Working Girl 01

町の女性たち
— ワーキングガール・ライフスタイル —

粋な女性の湯上がり姿



歌川国貞(三代豊国)「湯帰りの美人」(部分)

江戸時代の女性はどのような生活をしていたのでしょうか。浮世絵の美人画には、吉原の遊女や茶屋の評判娘だけでなく、ごく一般の女性も多く登場します。本章では浮世絵に描かれた市井の女性の仕事や暮らしぶりに焦点を当て、当時の女性像に迫ります。現代と比べると江戸時代の人々の生活は質素かつ単純ではありましたが、その日々の暮らしの中で趣味・育児・恋愛などの楽しみを見出すという点においては、今も昔も同じです。名もない女性たちの日常生活における何気ない一コマを描いた姿からは、それぞれの人生模様がありありと浮かび上がってくるようです。

肉筆画

トップアイドルのパレード

豪華な衣装を身に着けた遊女が、供を連れて歩いています。花魁が特別な日に盛装して郭中を練り歩くことや、引手茶屋に客を迎えに行くことを花魁道中といいます。右図は3月に行われた一大イベント「仲の町の桜」の際の様子です。仲の町の通りに桜の木を根付きのまま移植したもので、多くの見物客が訪れました。



鳥居清峯「新吉原江戸町二丁目 さの外屋内 歌町」

初代歌川豊国「おいらんと禿」(部分)

文責:伊藤基之

本展は、今も変わらない女性たちの美や娯楽へのあくなき探求心を、江戸の女性たちがお手本にしながら楽しんだ「美人画」113点(肉筆画6点を含む)を通して、身近に感じていただこうとするものです。鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎、湊斎英泉、歌川国貞、歌川国芳など、浮世絵の巨匠たちによる個性豊かな女性像も見どころとなっています。

Trend 02

最新トレンド
— コスメ・ファッション・エンタメ —

贅沢を禁じる法令があった江戸時代。それでも女性たちは精一杯のお洒落を追求しました。江戸時代に入ると、庶民の間にも化粧が広まります。髪型は基本的には結髪ですが、時代ごとに多種多様な形が考案されました。そして、今以上に季節の区切りが大事でしたので、衣替えは季節によって細分化され、色や柄でも季節感を演出。小物類も実用を兼ねたお洒落アイテムです。四季折々の行楽、あるいは郊外の人気スポットに足を延ばす「非日常体験」も女性たちの楽しみでした。コスメ、ファッション、エンタメ:浮世絵の美人画には、当時の最新トレンド情報が満載です。



歌川国芳「八町づつみ夜のけい」

秋草と戯れる三美人

涼風のなか思い思いに楽しんでいます。背景は日本堤(吉原堤)。左奥に見えている家屋が吉原でしょうか。浴衣は三者三様に描き分けられています。

眉引きをしないのは若妻!?

髪型は丸髷でお歯黒をするのは既婚者です。出産後は引眉といって、眉を抜いたり剃ったりしました。この女性はまだ引眉をしておらず、子のいない若妻であることがわかります。下唇に塗られているのは唇紅と呼ばれる黒色を帯びて青く光る紅。



初代喜多川歌麿「婦人相学拾録 かねつけ」(部分)

偕々広忠八良将ト感シ給フ

— 広忠惣領時代の再検討 —

<2>

令和三年二月十四日、安祥公民館において第10回松平シンポジウム「偕々広忠八良将ト感シ給フ— 広忠惣領時代の再検討 —」を開催しました。今回はその内容の第二弾です。

村岡氏の基調報告に引き続き、平野・大石両氏の報告と討論の一部の要旨を紹介いたします。



コーディネーター 村岡幹生氏
中京大学教授



平野報告 「松平広忠の領国統治」

広忠の数少ない史料から当該期の広忠の支配地・家臣との関係について述べられました。

広忠の領国支配の始期は村岡氏と同じく天文九年（一五四〇）である。父清康の時と変わらず寺領を安堵する代替わり安堵とし、岡崎城近辺の万勝寺（満性寺）・龍海院、東三河の富賀寺（新城市）など清康期の版図を継承した。村岡氏が偽文書とする富賀寺への書状写しは、広忠期は清康期を理解した上で見ていかなければならないが、版図として清康が手を広げていたその地域全域に発給されたもので、偽文書ではない。



パネリスト 平野明夫氏 國學院大学講師

しているが、曾祖父の長忠が広忠を安城松平家の家督継承者として承認した証しである。次に、広忠期の支配について、家臣（被官）の神原忠次（主計）に出した書状写しにある家臣の家督継承の承認は、当時戦国大名の権限として見られるもののひとつである。また、広忠の側近の阿部大蔵の奔走によって味方となった内藤甚三に与えた百貫文の地は、以前から甚三の所領である鷹落（高落）名田と野羽の地で、ここを不入地とし、検地のうえ不足分を羽角（西尾市）で与えるというものである。不入地とは税金の免除、また警察権が行使されない土地の意味があり、所領支配を任せることである。ここでの検地は不足分の確定のため、領国全体で行う検地はされていないが、二つの所領に限定した「論所検地」であるとした。おそらく家臣の所領以外での検地はできなかっただろう。

さらに具体的な支配の問題ではないが、上野三郎四郎に広忠の「忠」の字を与えた「一字書出」という写しがあり、栄誉を与えることで家臣との繋がりを強化していったと考えられる。

寺社との関係、特に安城松平家の菩提寺の大樹寺との関係であるが、天文十二年宝誉に対して屋敷を寄進した際には「大檀那」の立場から保護したもので、また、同十六年の清康の十三回忌でも寄進が行われたが、これは安城松平家の家督を継いでいる証拠とした。岡崎城近辺にある善立寺や桑子の妙源寺へ土地を寄進したり、大浜（碧南市）下宮（熊野神社）の

1 広忠発給文書の真偽について

富賀寺への代替り安堵の書状について、村岡氏は偽文書とし、平野氏は原本を写したものとした。偽文書とする立場では、他寺に発給されたものを写し取ったと見られるとし、一番の問題は前代の清康の段階で東三河の富賀寺に出せる状況であったかという根本的な疑問を村岡氏は提起した。対して、平野氏は様式的には問題がないとした。

2 広忠の家督継承及び論所検地について

平野氏という広忠の曾祖父道闕（長忠）が広忠を家督継承者として、または継承すべき人間として認識していたかという点について、村岡氏は、道闕の菩提を弔うのを広忠の責任であると論じていたのは確かだが、政治的な意味合いはそれほど大きくなく、当時の道闕に政治的発言力があつたかは疑問とした。それに対し平野氏は、菩提を守ることで自らが家督であり、当時の隠居の認識として、別に家督の祭主を行わないだけであつて、権力としてはかなり握っているというのがこの時代の隠居である。関東の戦国大名北条氏が隠居様といわれているが、北条家の最高権力者であつたという例を挙げた。

また、天文七年時の松平信孝の当主としての実質的振る舞いは道闕が認めていたかどうか不明であるとした。

広忠期に「論所検地」が行われたことについて、村岡氏は、趣旨は興味深い、鷹落と野羽の所領が他の者に与えられているから、羽角の地に「改」めたと読めるのではないかとし、平野氏は検地と断定するのは難しいと理解した。

次号は引き続き討論の後半の内容をご報告します。広忠期における今川氏の三河侵出と隣接する足利一門吉良氏の動向についての興味深い討論です。ご期待ください。

文責：三島 一信

没収された所領を酒井与四郎が親類だということ復帰させたりなどの例がある。ただ、広忠の支配領域は岡崎を中心とし、大浜を含めるが、西三河全体ではなかった、とした。

大石報告

「西三河を中心とした今川氏の三河国衆支配」

竹千代、後の家康にも影響を与えた今川氏の動向と吉良氏について述べられました。

徳川中心史観というものを排除して考えたとき、松平氏も三河の国衆のひとつであった。国衆とは小規模ながら、在地に根付いて地元への統制力、あるいは指導力・軍事力、さらには税の徴収などの権限を持ち、ある意味自立し、しかも自らを律することのできる領主で、領国内は排他的な性格を持つとされ、本質的には戦国大名と変わらないという考えが最近注目されている。

吉良氏と松平氏との関係は、清康が「清」の一字、広忠が「広」の一字を吉良氏から与えられている。吉良氏と今川氏の間には、吉良が本家で、今川が分家となる位置。吉良氏はまた、足利御三家の筆頭である。

今川氏の三河侵攻の際、東三河では今川の文書からある程度推測や類推できるが、西三河では今川の文書での説明は難しく、東三河であったものを西三河に単純にスライドさせることができるのか、試作的に考えてみる。

天文十四年までは駿河国の東で北条氏と争い、翌



パネリスト 大石泰史氏 大石プランニング主宰

討論

三者による基調報告の後、討論に入りました。いくつもの論点が挙げられましたが主な討論内容は、

- ① 広忠発給文書の真偽について
- ② 広忠の家督継承及び論所検地について
- ③ 三河における吉良家の存在価値
- ④ 天文十六年の織田信秀の岡崎急襲
- ⑤ 「駿遠軍中衆矢文写」の史料的评价

の五つに分けられます。ここでは、①②の討論内容について紹介します。

風を感じて歴史を歩く⑧

東部小学校区②

安城東部小学校の南西部、山崎町、上条町辺りの史跡を訪ねます。

「正法寺」（保科正直の館跡）

静かな佇まいの正法寺ですが、その歴史は変化に富んでいます。古くは、別宗派の寺でしたが、貞永元年（二二三二）の頃、浄土真宗に改宗したと言われています。永禄六年（一五六三）の三河一向一揆の時に、寺は焼き払われ、その跡に、短い期間、徳川家康の家臣であった保科正直が居館を与えられた地に住んでいたと言われていますが詳細は分かっていません。保科正直は、父と共に、武田信玄、勝頼父子に仕え、信濃国高遠の城将でした。しかし、武田氏滅亡後、北条氏に属した

後、天正十二年（一五八四）の「小牧・長久手の戦い」の頃には、家康の元に属しました。家康の関東移封に伴い、正直も下総国多古（今の千葉県多古町）に移りました。

家康による真宗の禁止が解けた後、矢作の東本郷（現在の岡崎市東本郷町）に正法寺は建てられました。宝暦四年（一七五四）、旧地であるこの地に寺を再建し、東本郷の寺と同じ正法寺と名付け現在に至っています。庫裏（住職と家族が住む居間）は、昭和九年（一九三四）に寺津八幡社（西尾市）の神官で、『三河誌』を著した江戸時代の国学者渡辺政香の住居を移築したと言われています。



「浄玄寺」

寺の創立、開基については定かではありませんが、市指定文化財「絹本着色方便法身尊像」や紙本墨書「六字名号」を所有する真宗の寺です。現在の本堂は、文化五年（一八〇八）に再建されたものです。文政元年（一八一八）に建造された鐘は、太平洋戦争の時、金属回収令によって供出されましたが、菊の紋章が入っていたからか処分されずに寺に戻ってきたので、「凱旋の鐘」と呼ばれています。明治初年には、「寺子屋」開設、そして「郷校」が浄玄寺に設置されました。昭和初期には、農繁期託児所も開設されています。地域に大切にされた寺は、ずっと地域の子供たちの学びの場でもありました。昭和の中ごろまでは、和讃講という法要があり、子供たちも住職から声明の練習を受けました。右の絵は、第十三世住職を務めた故桜井純氏の筆によるものです。



故桜井純氏筆「子供たちのお経練習」

「郷校」が浄玄寺に設置されました。昭和初期には、農繁期託児所も開設されています。地域に大切にされた寺は、ずっと地域の子供たちの学びの場でもありました。昭和の中ごろまでは、和讃講という法要があり、子供たちも住職から声明の練習を受けました。右の絵は、第十三世住職を務めた故桜井純氏の筆によるものです。

「神光寺」、「上条白山媛神社」

神光寺は、江戸時代初期の開基の天台宗の寺でした。徳川家康は、上条白山媛



上条白山媛神社

神社に、社領五十石の朱印を与えましたが、その神宮寺が神光寺でした。開基である米津盛田の縁から岡崎市の滝山寺とも関係が深く、江戸時代、隆盛を誇っていました。しかし、明治初期の神仏分離令により、寺号を廃し、庵となりました。さらに寺宝が散逸する不幸もありました。地域住民の努力で寺宝は買い戻され、六十年以上の時を越えて、浄土宗の寺として寺号も復活しました。今は、無住の寺ではありませんが、地域住民が交代で寺を守り続けています。神光寺には多くの宝物がありますが、ここでは、平成二十九年（二〇一七）に市指定文化財となった相撲土俵四本柱を紹介いたします。江戸末期、上条白山媛神社の祭礼で相撲が奉納されたときに四隅に建てられていた四本柱のうち一本です。地方に相撲土俵柱自体が現存している例は少なく貴重です。柱に彫られた銘文から江戸相撲の年寄で、三河地方一帯の相撲興行を取り仕切っていた清見湯又市が免許したことが分かっています。

SUMMER EVENT

歴博の夏は学べるイベント、楽しいイベントが盛りだくさん！



美人画浮世絵展

記念講演会 & 関連イベント

江戸の女性の日常・非日常

[日 時] 7月17日(土) 14:00~
[講 師] 山本野理子氏 (美術史家・日本風俗史学会理事)
[定 員] 30名 (先着順)
[申込み] 7月3日(土) 9時~電話受付

参加無料

浮世絵にみる江戸美人の化粧・髪型

[日 時] 7月31日(土) 14:00~
[講 師] 村田孝子氏 (美容考古学研究所所長)
[定 員] 30名 (先着順)
[申込み] 7月6日(火) 9時~電話受付

参加無料

国芳美人の魅力

[日 時] 8月14日(土) 14:00~
[講 師] 中澤麻衣氏 (横山美術館学芸員)
[定 員] 30名 (先着順)
[申込み] 7月13日(火) 9時~電話受付

参加無料

美人画の団扇を作ろう

[日 時] 7月17日(土)~9月12日(日)
9:00~16:00
[費 用] 200円
[数 量] 各日30個(先着順)
[対 象] 特別展観覧者



日本髪のかみ結実演の観覧

[日 時] 9月5日(日) 14:00~
[実 演] 谷村真規氏、鳥居京子氏、射場祐子氏、田島美香氏、岡部恵美氏
[定 員] 15名 (先着順)
[申込み] 8月7日(土) 9時~電話受付

参加無料



夏休みイベント

夏休み 歴史の専門家に相談しよう！

自由研究相談会

歴史に関する自由研究のテーマ決めや調べ方の相談、参考になる本や資料を紹介します。作品は歴史のひろば展に応募してみましょう！
※相談時間は最長30分まで



[日 時] 7月23日(金・祝)・24日(土)・25日(日)
10:00~15:00
[会 場] 歴史博物館
[対 象] 小学3年生から中学3年生まで
[申込み] 7月10日(土) 9時~電話受付。
希望日時、調べたいテーマをお知らせください。



さとのマルシェ

安祥城址公園内に飲食のキッチンカーや雑貨の店舗が集うマルシェを開催。

[日 時] 7月24日(土) 10:00~15:00
[場 所] 安祥城址公園

協力:FEEL FREE



回り灯籠を作ろう

夏の夜を幻想的に彩る「回り灯籠」を作ってみませんか。

[日 時] 8月8日(日) ①10:00~ ②11:00~ ③14:00~
[場 所] 歴史博物館 体験学習室
[定 員] 各5名(先着順)
[費 用] 1個/1,000円(材料費)
[申込み] 7月14日(水) 9時~電話受付



研究紀要 No.25 を発刊

学芸員や研究者の研究報告を掲載する「研究紀要 No.25」を発刊します。今回、紀要に収められているのは「教員後藤家に残る軍事郵便」と「資料紹介 斎藤勘郎家文書資料の内「御触状写留」の二本です。「教員後藤家に残る軍事郵便」は、教員後藤善平あてに出征した教え子や同僚からの手紙がなせ八五五通も届いたのかを分析しています。「資料紹介 斎藤勘郎家文書資料の内「御触状写留」」は、安城市内に数多く残されている近世地方文書のひとつです。領主から村々へ出されたお触の内容がわかる興味深いものです。いずれも貴重な資料を紹介していますので、ぜひ一読ください。



安城市歴史博物館受付にて販売します。通信販売でも購入できますので、お問合せください。

TEL:0566-7716655

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPにてご確認ください。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655